

関東甲信越・静岡

# 自立への一步のために～社会的養護からの巣立ちを 支えていくとちぎユースアフター

栃木県

## とちぎユース アフターケア事業協同組合

**支援対象:** 社会的養護(施設、里親等)で育った当事者(入所・委託中の高校生等を含む)

**支援方法:** 来所・訪問・電話・メール等による相談支援。当事者活動の場の提供及び活動への支援。施設入所児童等への研修会開催。生活資金等の貸付。

**スタッフ数:** 正職員 1 名、嘱託職員 2 名

**代表者:** 理事長 牧 恒男



住所: 〒320-0043 栃木県宇都宮市桜 5 丁目 1-18  
柿沼ビル 501 号室

TEL・FAX : 028-680-4686

e-mail: daijike2@sun.ucatv.ne.jp

URL:現在作成中(サロンは次のとおりです。)

<http://www2.ucatv.ne.jp/~daijike2.sun/>

### 成り立ちと活動の全体像

児童福祉法上は、児童養護施設等は退所後も相談支援を行うことになっています。しかし、虐待などで施設入所する児童が多く施設職員等がそのケアに専念できるよう、アフターケアに特化した事業を行う組織を作ることになりました。アフターケアの充実を知事のマニフェストでもあり、またアフターケアを目的とした県への大口寄付があったため、県議会の後押しの中で、県としても新規事業に取り組むことになり補助金等が予算化されました。栃木県児童養護施設等連絡協議会と栃木県とが検討委員会を重ね、25年6月に児童養護施設、自立援助ホームを運営する社会福祉法人とNPO法人が出資して協同組合を設立しました。その後一般財団法人栃木県里親連合会も加入して、現在は13法人、16施設等で組合を組織しています。設立にあたっては、千葉県協同組合を参考にさせていただきました。

活動は、社会福祉士、保育士等専門職員及び当事者スタッフが、退所児童等の生活上、就業上の相

談支援や、居場所及び当事者活動の場としてのサロン運営、施設入所児童等の退所前の自立にむけての研修会開催、生活資金等の貸付、県民への啓発活動などを行っています。また、他法人と連携し、就労支援や各種イベント活動なども行っています。なお、運営に当たり、毎月、施設等の職員で構成するアフターケア実務担当者会議を開催し、研修等事業内容を決めて実施しています。

### ある日の活動風景～サロン「だいじ家」

#### 〔クリスマス会〕

当事者活動の場であるサロン「だいじ家」において、行事の一つであるクリスマス会を26年12月24日クリスマスイブの日に開催しました。当日は、当事者の方が5名、スタッフや法人役員・ボランティアなども含めると計11名が参加し、楽しいひとときを過ごしました。また地元新聞社の取材もあり、活動を記事にいただきました。サロンでは、毎週水曜日に当事者スタッフを中心に夕食会を開催しており、季節の行事も取り入れるなど変化をつけながら実施しています。

## 沿革

- 平成 25 年 6 月 協同組合設立  
(組合員は 10 法人)
- 平成 25 年 7 月 事業開始  
(退所児童アフターケア事業、退所児童等の社会的自立支援事業)
- 平成 26 年 1 月 組合員として 3 法人が新規加入

## 主な活動

- ・ 退所児童等のアフターケアのための共同施設の設置及び管理運営
- ・ 退所児童等への生活上及び就業上の相談支援に関する事業  
～ 相談支援員による来所・訪問・電話・メール等による援助活動
- ・ 施設退所児童等の自助グループの育成支援に関する事業  
～ サロン「だいじ家」の運営
- ・ 施設からの退所等を控えた児童を支援する事業  
～ 自立支援プログラム研修会等の開催
- ・ 退所児童等への生活資金等の貸付に関する事業  
～ 小口生活資金 5 万円、住宅確保資金 15 万円、就業資金 25 万円を、組合員を通して貸付
- ・ 施設等のアフターケア実務担当者会議の定例開催によるアフターケア技術向上及び情報提供

### 〔日帰り旅行〕

サロン利用者が自分たちで企画して、26 年 10 月 15 日に日光方面への日帰り旅行を行いました。中禅寺湖や華厳の滝など紅葉真っ盛りの中で楽しい 1 日を過ごしました。

### 〔成人式〕

ボランティアとして着物の着付けなどをしてくれる「きものきせ隊」の方たちが、成人式に出席できなかった当事者に対して、27 年 1 月 18 日に着物を貸して着付けなど行って下さいました。晴天のもとで野外撮影などを行い、完成した台紙つきの写真をプレゼントして喜んでいただきました。

### クリスマス会



### 自立支援プログラム研修会

#### 〔研修会の実施状況〕

平成 26 年度は、自立支援プログラム研修会を全体で 6 回行い、また、中央・県南・県北の 3 地区で地区別研修会を各 1 回開催しました。社会に出ていくときに役に立てることができるように、全体研修ではお金の管理、性教育、法律の話、料理教室、ビジネスマナー、テーブルマナーなどを学びました。また、地区別研修では、社会的養護で育った先輩社会人を招いて座談会を行い、先輩の経験談を聞き、参加児童から先輩に質問するなどしました。この研修会は、施設間の交流の場にもなっており、先輩にも接することのできる貴重な時間になっています。

#### 料理教室



キリスト教的人間観に基づき「キリストの愛」になって「小さくされた人々と共に歩み」人として尊厳と権利を大切にされて日々を送り、やがて自立して社会に出る日を、あるいは良い終わりを迎えられるように援助すること(法人の基本理念)

栃木県

## 社会福祉法人イースターヴィレッジ 自立援助ホーム マルコの家

**支援対象:** 義務教育終了後の15歳～20歳までの男女

**支援方法:** 住居の提供、及び就学、就労、自立支援

**スタッフ数:** 常勤3名 非常勤2名 ボランティア5名  
(平成27年1月1日現在)

**実施団体:** 社会福祉法人 イースターヴィレッジ 自立援助ホーム マルコの家

**代表者:** 施設長 小田 文裕



住所: 〒328-0042 栃木県栃木市沼和田町14-28  
TEL: 0282-21-7740 FAX: 0282-21-7740  
e-mail: info-marc@easter-village.or.jp  
URL: <http://marchome.web.fc2.com/>

### 成り立ちと活動の全体像

虐待や家庭崩壊などの理由により、家庭での養育が不適切である児童は、児童養護施設や里親家庭で養育を受ける権利があります。しかし、定時制高校への進学、高校中退、施設不適應などの理由から、社会的養護の場を離れ、就労自立を迫られる未成年がいます。家族からの十分な愛情を受けられず、後ろ盾もないままに10代で就労、自立する事は困難を極め、退職と同時に、住処を失い、路頭に迷う子もいました。平成22年7月の当ホーム開所まで、就労する高齢児童のための「自立援助ホーム」は、栃木県内に1か所しかなく、定員一杯であれば、入居できずに不安定な生活を余儀なくされる子ども達が多数いました。そこで、10代で自立するしかなかった子ども達が、生活の中で他者への信頼感を取り戻し、自立への道を歩めるよう支援する事を目的に、県内二つ目の自立援助ホームとして、栃木市に開所致しました。

### 失敗の保障と他者への信頼の回復

職員は利用者の相談、適切な情報提供やサポートを行います。最終的な決断は、利用者本人の意思となります。それは、ホームに入居するか、否かの段階から始まります。決断の結果が、たとえ上手くいかなかったとしても、子ども達は自分の下した結果を受け止め、考査し、また新しい決断をします。職員は、傷つき、悩む子ども達に寄り添いながら、彼らがエンパワメントできる環境を整えます。子ども達は、何度失敗しても、見捨てない大人がいる事を身をもって学ぶことで、安心して再チャレンジし、力を蓄えて巣立つことができます。また、利用者の中には家庭の事情により、誕生日を祝ってもらったことのない子、旅行に行った経験のない子もおりますので、利用者の誕生日には、本人の希望するケーキと料理でお祝いを行います。また、助成金を活用し、年に1度を目安に旅行を実施しています。自分の存在を認め、大切にされた、という経験は確実に子ども達的情緒をはぐくみ、自己肯定感を高め、就労への意欲にも繋がっています。



## 沿革

平成 22 年 4 月 栃木県知事より開設認可がおりる

平成 22 年 7 月 栃木県栃木市沼和田町に開所

## 主な活動

- ・利用者の就労への取り組み、職場での人間関係等に関する相談に応じて支援を行うとともに、職場開拓を行い、安定した職業への就労を支援する。
- ・利用者の健康管理、金銭管理、余暇活動、食事等の日常生活に関する相談、指導、援助を行うとともに、心身の状況や生活歴等の把握に努め、適切な援助を行う。
- ・利用者の心身の状態に応じて、適切な福祉サービス提供者、情報の提供を行う。
- ・退所した者についても、生活相談、職業相談に対応する。



## 外部へのプレゼンテーション活動

児童虐待防止啓発を目的に、市民講座を開催し、近県各地でのプレゼンテーション活動を行っております。子ども達がどんな思いで暮らし、どんな明日を望んでいるのか、我々がどんな支援を必要としているのかを、多くの方に知って頂き、子ども達の良き理解者になって頂く事は、子ども達の社会自立を盤石なものとします。



子ども虐待という悲劇を無くし、  
ひとりでも多くの子どもが「生まれてきてよかった！」と  
実感できる社会をつくれます

栃木県

## 特定非営利活動法人だいじょうぶ

**支援対象:** 虐待を受けた、受ける可能性の高い子ども

**支援方法:** 育児支援家庭訪問・母子の居場所での子ども  
の養育補完

**スタッフ数:** 17名

**実施団体:** 特定非営利活動法人だいじょうぶ

**代表者:** 畠山 由美



住所: 〒321-1261 栃木県日光市今市 1659-10  
子どもと親の相談室  
TEL: 0288-21-2119 FAX: 0288-22-7294  
e-mail: hope@npo-daijobu.com  
URL: <http://www.npo-daijobu.com/>

### 成り立ちと活動の全体像

子どもに対しての虐待、その他人権を脅かす行為から子どもを保護するとともに、子どもを取り巻く社会に対して子どもの人権擁護に関する啓発事業を行い、かつ関連機関とのネットワークによる子どもと家族へのサポート事業を実施することにより、子どもが安心して健全に成長できる地域環境づくりに寄与することを目的とし、活動しています。

私たちの団体は、民間ならではのきめ細かなサービスと対応を行っています。話を聴くだけでなく、家事を手伝う、子どもの面倒をみる、病院に連れて行く、などです。たとえ深夜でも迅速に活動することで問題を抱える家庭（人）と共に解決に向けて歩んでいます。

これまでの活動で、ゴミ屋敷となった家庭のごみを片付け、母親と寄り添うことで地域の中で普通の暮らしが出来るようになったり、お風呂に入る習慣のなかった家庭で、「臭い」と言われ、いじめられていた小学生が定期的に入浴できるようにな

り、いじめられなくなりました。又、精神疾患を持つ母親の不安を昼夜問わず聴くことで、安定した子育てが出来るようになり、子どもを学校へ通わせることが出来るようになりました。不登校、家庭内暴力の家庭では現在暴力が無くなり、居場所へ通えるようになっています。

### ゴミ屋敷にお掃除に...

意に反して子どもからクレームが

家に子どもだけで暮らし、親はコンビニ弁当やカップラーメンを玄関先に届けるだけで家にあがないというケースがありました。何年も溜め込んだゴミが部屋中に山積、とても子どもが健全に暮らす環境ではありません。度重なる説得のおかげで親御さんの了解が得られたので、述べ20人くらいで部屋のごみ掃除に。なんと2トン以上もの可燃ごみができました。きれいになったのはいいのですが、それまでゴミの山の間で寝ていた子どもから「掃除したせいで夜寒くて眠れない」と訴えがありました。布団を提供し一件落着となりました。

## 沿革

- 平成 16 年 11 月 子ども虐待に関する勉強会開始
- 平成 17 年 8 月 法人設立、活動開始
- 平成 18 年 1 月 子ども虐待相談、ショートステイ受け入れ開始
- 平成 18 年 4 月 育児支援家庭訪問事業開始
- 平成 23 年 4 月 親向け「MY TREE ペアレンツプログラム」開始
- 平成 23 年 8 月 母子の居場所「Your Place ひだまり」運営開始
- 平成 26 年 4 月 第二の居場所「高德ひだまり」運営開始
- 平成 26 年 4 月 母子のステップハウス「高德ひだまり」内に設置

## 主な活動

- 1) 虐待防止・発見のための相談事業  
電話相談窓口を一日 24 時間、毎日開設。虐待の未然防止、早期発見に努め、問題の解決に向けて共に考え、共に取り組む。
- 2) 虐待されている子どもの保護に関する事業
- 3) 養育困難家庭への訪問支援事業  
家事、育児が困難な家庭を訪問し、共に家事、育児をし、子どもが健全に暮らせる養育環境を整える。
- 4) 母子の居場所の運営事業  
Your Place ひだまり（今市、日光地区）  
高德ひだまり（藤原地区） 養育困難家庭の子どもたちに、定期的に通ってもらい入浴、食事、洗たくなど、家庭で欠けている養育を補う。
- 5) 親教育プログラムの実施  
・虐待してしまう親のための回復プログラム「MY TREE ペアレンツ・プログラム」  
・子育て応援セミナー
- 6) 虐待防止のための啓発事業  
一般市民、教職者などを対象とした勉強会、講演会等に講を派遣。
- 7) ネットワーク作り  
子ども虐待の対応に不可欠な児童相談所や市の相談室、学校、保育園、幼稚園、警察などと連携し、支援体制を整える。

### 自信を取り戻し、勉強開始...無事高校に進学！

「自分はバカなんだと思っていた。」居場所に来るまではそう思っていた中学生が、居場所で様々な人とかわる中で自信を取り戻し、高校進学に向けてやる気をもって勉強に取り組むようになりま

した。結果、無事高校に進学しました。高校に行っても勉強をつづけ、調理師になるという夢に向かって、今では「勉強は楽しい！」と頑張っています。



# 様々な困難を抱える若者たちのために 相談から自立まで総合的に支援します

栃木県

## 一般社団法人 栃木県若年者支援機構

**支援対象:** 概ね 15 歳 ~ 39 歳までの若年者

(学習支援事業については小学生 ~ 中学生年代含む)

**支援方法:** 就労に関する相談・就労訓練 (対象概ね 15 歳 ~ 39

歳) 学習支援 (小学生 ~ 成人まで幅広く)

**スタッフ数:** 50 名 (常勤職員 11 名、非常勤 39 名)

**実施団体:** 一般社団法人栃木県若年者支援機構

**代表者:** 代表理事 中野 謙作



住所: 〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和 2 - 7 - 5

TEL: 028-678-4745 FAX: 028-678-4746

e-mail: info@tochigi-yso.org

URL: <http://tochigi-yso.org/>

### 成り立ちと活動の全体像

一般社団法人 栃木県若年者支援機構は、主に社会参加や就労に困難を抱える若者たちの支援事業を行っている。厚生労働省の委託事業である「とちぎ若者サポートステーション(通称サポステ)」では入り口となる相談事業を実施している。そして学習における「寺子屋」、発達障害のための専門的学習塾「ANDANTE」、中間的就労支援となる「ユニバーサルデザインジョブ」など段階別、目的別に支援体系を組んでいる。また、単に就労や自立をサポートするだけでなく、その若者たちの力で社会的課題に取り組み、より良い社会、より良い栃木県づくりに寄与することを団体のもう一つの柱としている。26年度からは栃木県及び宇都宮市の生活困窮者自立支援(学習支援)の受託、栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センターの開設により、団体としての支援対象者の年齢層が小学生・中学生年代にまで拡大している。

### 生活困窮者支援にまつわる当団体の事例と実感

宇都宮市生活困窮者自立支援事業(学習支援)が始まり、生活保護受給世帯を対象として参加希望者を募ったところ定員 30 名に対して 40 名が希望し、最終的には定員規模を拡大し、通信添削も含め 55 人を登録、2 週間で募集を締め切りました。

子どもたちはこちらで用意した学習プリントや学校の宿題に取り組み、わからないところがあれば手を挙げて講師に教えてもらう。開設当初は運営の体制を模索しながらだったこともあり、子どもたちが手を挙げる度に講師たちが次々と教えて回っていた。電車とバスを使って 1 時間以上もかけて通う子もいれば、休憩時間も惜しみ問題を解き続ける子もいる。自分たちが企画した教室とはいえ、二ズの高さや子どもたちの学習意欲の高さに講師やスタッフたちも驚きだった。

通信添削による学習を受けている子どもたちも非常に意欲的に学習に取り組む姿勢が見受けられる。



## 沿革

- 平成 22 年 4 月 一般社団法人栃木県  
若年者支援機構設立
- 平成 22 年 6 月 緊急人材育成 基金訓  
練事業 社会事業者等  
訓練コース「コミュニ  
ティービジネス科」  
「グリーンジョブ科」  
の運営
- 平成 23 年 4 月 自主事業として職業  
訓練・職業教育事業を  
開始
- 平成 24 年 4 月 厚生労働省委託事業  
地域若者サポートス  
テーション事業受託
- 平成 26 年 6 月 宇都宮市生活困窮者  
自立支援事業（学習支  
援事業）受託
- 平成 26 年 9 月 栃木県生活困窮者自  
立支援事業（学習支援  
事業）受託

## 主な活動

- ・地域若者サポートステーション運営  
就労を目指す者に対しての相談窓口を設け、個別対応で若者の就労  
までの支援計画を立てて自立へとサポートします。
- ・栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター運営  
ひきこもり、ニート、不登校など、様々な悩みや困難を抱える子ども  
若者とその保護者の方などがご相談いただける県内の若者総合相談  
窓口。
- ・発達障害児・者向け学習塾「ANDANTE - あんだんて - 」  
学びに困難を抱える子どもや若者たちのための学習塾
- ・ユニバーサルデザインジョブ事業（中間的就労）  
ジョブトレーナーの引率のもと、本人の体力や適性に合わせて農園や  
森の整備、企業の仕事など様々な作業体験に段階的に参加してもら  
い、働ける力をつけて就労へとつなげる。一緒に作業します。
- ・生活困窮者自立支援事業（学習支援事業）  
生活保護受給世帯の子どもが成長し、再び生活保護に至るとい「貧  
困の連鎖」を防止するため、学習支援や、進路相談を行い進学を促進  
して、生活保護受給世帯の子どもの自立促進を図る。

こちらから送った課題に関する質問だけでなく、  
学校で受けたテストに関する質問等をしてくる子  
どももいる。教室に通うには距離的な問題がある  
だけに、そういった意欲的な子たちを直接指導で  
きかないことは残念なことでもある。

学習支援はやり始めてすぐ効果が出るものではな  
い。時間と労力がかかり、そこに参加する子ども  
たちの学習意欲と学習時間の配分で少しずつ形が  
出てくる。経済的な理由で塾に行けない子どもた  
ちが、公で設置する学習支援教室で、学ぶことが  
できることの喜びや安心感を提供していきたいと  
考えている。

一方で、生活保護の家庭環境の中で、長く育っ  
てきた成人の自立支援は非常に難しい側面が感じら  
れる。ある支援対象者の一人も長く困窮家庭で育  
ち、生活保護を受ける生活が当然ようになって  
いた。長期の相談支援を経て職業訓練の段階まで  
移行したが、働けない理由を口にすることが多く、  
心身ともに健康体で訓練で行う作業は非常に丁寧

で優秀であるにもかかわらず、なかなか社会に出  
るという選択肢を選ばずに長い月日を過ごした。  
当法人としてかかわって 4 年、その前から他の支  
援機関と関わっていた時期を含めれば 10 年近く  
を経て、最近やっと週 4 日の仕事に就き、仕事を  
始めたところである。

ここは不登校やひきこもり、ニートなどの若者が、  
家から一步外へ踏み出すことを目的とした、  
好きな時に訪れて、自由に過ごせる空間です

群馬県

## ぐんま若者応援ネット

**支援対象:** 不登校やひきこもり、ニートなどの若者及びその家族(対象:小学生～概ね30代前半)

**支援方法:** 上記若者への常設の居場所の提供、若者及び家族からの電話・メール相談、定期的な講演会の開催、利用者及びその家族対象の月一のイベント。

**スタッフ数:** 正規職員 2名、登録ボランティア 13名

**実施団体:** ぐんま若者応援ネット

**代表者:** 佐藤 真人



住所: 〒379-2147 群馬県前橋市亀里町1299番地7  
エスコンビル 4F  
TEL: 027-225-5500  
e-mail: alice@neet.support  
URL: [http:// neet.support/](http://neet.support/)

### 成り立ちと活動の全体像

ぐんま若者応援ネットは不登校や引きこもり、ニートなどの若者が家から一步外へ踏み出すことを後押しして、再び社会へ出る若者をサポートすることを目的としている。

今までこうした若者への支援は埼玉県「バクの会」や、群馬県のNPO法人パスの会が古くから行っていた。どちらも「不登校」という存在がまだ知られていない、1980年代から活動を行っていた団体である。かつて私自身が中学生の時に不登校になった時もこの2つのフリースペースにお世話になった。

しかし、残念ながら代表及びスタッフの高齢化などでどちらも活動を終えて、こうした若者の居場所がなくなってしまった。地域若者サポートステーションなど、主に就職に向けた支援を行う体制はあるが、それより以前の段階である、まず家から外へ出ること、若者の居場所を常時提供しているところは群馬県全体を見てもほとんどない状態である。

私たちが行っている事はこうした若者のための最初の一步、家以外の居場所を提供して、いろいろな年齢の人と話し、交流する中で、外へ出ることへの抵抗を無くすことである。私はかつてフリースペースのお世話になった身として、多くの若者が外に出るきっかけの場としたいと思い設立をした。

### アリスの広場 第2回 講演会の様子

2015年1月25日(日)アリスの広場で第2回講演会を開催しました。会場には約30名(スタッフ除く)もの方々にお越しいただきました。

開始前には、山本 龍 前橋市長様が大変お忙しい中、顔を見せて下さいました。また、小川あきら・群馬県議会議員も大変お忙しい中お越しく下さり、長時間にわたり参加して下さいました。

今回はゲスト講師に群馬県こころの健康センターの反町 真澄さんを招き、「ひきこもり支援センターにおける家族支援」をテーマにお話しいただきました。

当団体からは NPO 法人 前橋環境保全基地 代表

## 沿革

- 平成 26 年 6 月 フリースペース アリスの広場設立の準備を始める。活動を支えるボランティアスタッフやサポート医師からの賛同を得る。
- 平成 26 年 9 月 群馬県前橋市亀里町でアリスの広場運営開始
- 平成 26 年 10 月 オープン記念講演会を開催。30 名以上が参加。
- 平成 26 年 12 月 山本 龍 前橋市長来館。利用者・スタッフと約 1 時間半懇談する。
- 平成 27 年 1 月 第 2 回講演会開催。約 30 名の参加者(スタッフ除く)

## 主な活動

- ・ フリースペース アリスの広場の運営。毎週 火～土 10:00～18:00 小学生からおおむね 30 代までの若者およびその家族の居場所を提供。
- ・ 相談対応  
不登校やひきこもり、ニートなどに悩む家族及び本人からの電話・メール相談対応。
- ・ 講演会（3 か月に 1 度のペース）  
外部講師および元教諭のスタッフによる 2 時間ほどの講演会を開催。
- ・ おしゃべり会  
利用者及びその家族を対象とした月一の小イベント。料理などを作りながら当事者や親同士が交流。
- ・ 野外活動  
他団体とも連携をして、利用者及びその家族と、自然の中での野外活動を行う。
- ・ 季節イベント  
他団体とも連携をして、お花見やクリスマス会などを行う。
- ・ 出張講演  
行政機関や NPO など民間団体への出張講演。

の鈴木 正知さんが、「アリスの広場の今までの歩みとこれから」をテーマに、いろいろな団体と連携して活動する意義を実例を挙げながらわかりやすく語りました。

最後に当団体でボランティアスタッフとして活躍する、元前橋市立桃木小学校校長・元スクールカウンセラーの増田 勝弘さんにより、「元教員の立場から・事例を通して学ぶ」というテーマで、様々な児童を見てきた経験を元に話をしました。参加した親御さんたちはメモを取りながらとても熱心に話を聞いていました。

講演会終了後も親御さんたちからの相談を受けたり、施設案内などを行いました。



## おしゃべり会の様子

アリスの広場では講演会とは別に、毎月 1 回おしゃべり会を開催しています。これは利用者の高校生のアイデアで講演会とは違う当事者同士が集まって話をする機会があればという事で始めました。このイベントの時には普段は別の曜日に来ているボランティアスタッフも呼び、ホットケーキやたこ焼きなどをみんなで作って楽しみました。



# 不登校ひきこもりを含む子育て支援団体

群馬県

## 特定非営利活動法人手をさしのべて

**支援対象:** 不登校引きこもりを含む子育て支援

**支援方法:** フリースクール出張カウンセリング 放課後等  
デイサービス 就労支援 方法は個別対応  
になります

**スタッフ数:** 20名

**実施団体:** 特定非営利活動法人手をさしのべて

**代表者:** 理事長櫻井信治

住所: 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾長 2496 番地 1

TEL: 090-4521-7371 FAX: 027-384-3384

e-mail: tewosashinobete@globe.ocn.ne.jp

URL: <http://tewosashinobete.com>

---

---

### 成り立ちと活動の全体像

---

---

わたしたち NPO 法人手をさしのべて の団体は、不登校・ひきこもりを含む子育て支援団体です。不登校・ひきこもり経験者とその保護者が中心となり運営をしていました。現在不登校ひきこもり支援のほか子育て支援、障害者支援、就労支援など様々な事業を行っています。不登校ひきこもりには経験者にしか、わからない部分がたくさんあります。他の事業も同じことですが経験をもとに今困っている人に何かしてあげることはい

か・・・ということを考え設立した団体です。講演会活動はもちろんのこと出張カウンセリング、野外イベントなどの活動を通じて本当に必要なことは何かということを社会的にではなく親子に問いかけて答えを探すきっかけ作りを支援しています。また県内の不登校ひきこもり支援団体との交流を持ち情報提供の場を広げ、一人ひとりであった環境を整えることを目標としています。



## 沿革

- 平成 18 年 7 月 団体を設立
- 平成 18 年 7 月 カウンセリング事業
- 平成 21 年 3 月 子育てサロン開設
- 平成 22 年 1 月 グローイング開所（放課後等デイサービス）
- 平成 24 年 3 月 FLY 開所（放課後等デイサービス）
- 平成 26 年 5 月 レインボーサンフラワー開所（就労支援 A・就労移行）
- 平成 26 年 10 月 ヒューマンキャンパス高等学校サポート校開所
- 平成 26 年 10 月 相談支援事業所

## 主な活動

- ・出張カウンセリング
- ・フリースペース運営
- ・講演会活動
- ・各種イベント
- ・同活動団体交流及び紹介（不登校ひきこもり支援団体ネットワーク代表）
- ・メール相談
- ・子育てサロンレインボーサンフラワー
- ・放課後等デイサービス  
グローイング 高崎市田町  
FLY 高崎市東貝沢町
- ・就労支援 A 型、就労移行
- ・相談支援事業所
- ・通信高校サポート校

---

## 不登校支援

不登校の中学生に学習支援を行い普通高校に合格させています。利用者がピークになるのは受験一か月前くらいですが、団体設立前は塾だったこともありそのノウハウを生かし合格へと導いています。団体の目標は不登校ひきこもりがなくなることですが、このような大きな選択時期にしっかりと希望を叶える、叶える為の支援を行うことで多くの若者が変化してきました。自立することは大変なことです。その第一歩としてとらえ支援を継続していくことが現在の目標です。

# 「負の連鎖を断ちきる」

群馬県

## おおた女性ネット

**支援対象:** 母子家庭、貧困家庭の子ども、DV 被害者の子ども、不登校の子ども。

**支援方法:** 毎週二回(月、木曜日)の無料学習会開催

**スタッフ数:** 14 名で当番制

**実施団体:** おおた女性ネット

**代表者:** 宗像さゆり

住所: 〒373-0816 群馬県太田市東矢島 998 - 4

TEL: 026-49-2877 FAX: 0276-49-2877

e-mail: itikisimahime-1103@ezweb.ne.jp

URL: <http://ojnstudy.jimdo.com/>

### 成り立ちと活動の全体像

代表は元 DV 被害者です。代表が保護施設で出会った子どもたちはすべて学習が著しく遅れていました。母子家庭の子どもたちも経済的理由から学習塾に通うのが困難であることに気づきました。学習の遅れは自信や自尊感情を低くします。日々の生活を流し、楽なほうへ流し、めんどろな事(地道な努力の継続)から背を向けるようになります。これがいわゆる「負の連鎖」、生活保護受給者の子どもは生活保護受給率が高くなったり、貧困や社会的行動、社会生活不適合(人とうまくコミュニケーションができない)などの原因だと解りましたので、DV 被害に遭っている女性の悩みを受けながら無料進学塾を拓きました。

### おおた女性ネット活動現実(目指していること)

「貧困」から見いだす活路 宗像さゆり  
私は元 DV 被害者です。夫から避難した施設で見たこと、聞いたこと、感じたことが今の活動の原点

です。施設に来る人は皆ボロボロに傷つき貧困でした。下着も着替えもない人がいました。そして気づきました。ここに来るお子さんは皆学力が低い。DV 家庭のお子さんの頭の中はいつも恐怖や緊張でいっぱいなので勉強が身につかないんですね。4歳で階段を5,6段上がってから妹に跳びかかるお子さんもいました。大人の目を盗んで妹を攻撃します。「ぼくは生まれてこなければよかった」と言いました。児童虐待も DV も加害者に責任がありますが、加害者は皆怒っています。彼らは「怒り」を、ターゲットに当てるやり方を周りから学んだのです。彼らは感情の整理や調整の仕方を知りません。これは経済的貧困の先にある文化的貧困(どうして腹が立つかを説明できないという知恵や知識の不足)の一つだと考えます。怒鳴る親のお子さんは怒鳴るようになります。黙っている親のお子さんは黙っているようになります。「怒り」をターゲットに爆発させる人と対照的に、「怒り」を自分の中にしまいこむ人(黙って我慢する人)もいます。彼らは争いが嫌いですが気持ちを伝えるのが苦手なので、人間関係がうまくいかず自信を失

## 沿革

- 平成 25 年 3 月 DV 無料相談を開始「おおた女性ネット」発足
- 平成 26 年 4 月 母子家庭の子どもに対する無料学習会スタート
- 平成 26 年 7 月 DV 防止講演会開催(太田市後援)福祉会館にて
- 平成 26 年 10 月 群馬大学理工学部大学院(太田キャンパス)の協力でボランティア講師の当番支援がスタート
- 平成 27 年 2 月 初めての受験生(中3)が第一志望校(公立)合格
- 平成 27 年 2 月 群馬県教育支援サミット、ボランティア学習会の集い開催  
場所:高崎市総合福祉センター(群馬県、高崎市、高崎市社会福祉協議会、朝日新聞社、上毛新聞社後援)

## 主な活動

- ・母子家庭の子ども、不登校の子どもに対する無料学習会開催(群馬県太田市福祉会館ボランティア室にて、毎週月曜日、木曜日 19:00~21:00)平成 27 年 4 月より福祉会館移転の為場所は太田市本町「まちなか文化ルーム」に移動する。
- ・DV に悩む女性のサポート(無料相談、行政同行、警察署同行)
- ・登録生徒に対する日常生活相談、学習相談、進路相談、悩みごと相談。生徒の母に対するメンタルサポート、情報提供。

っていきます。これを繰り返すとウツや病気になり、実は、自分で自分を攻撃しているのに気付いていません。心は満たされずやはりお腹がすいた状態です。これも文化的貧困です。日本では物品のほかにお金で先進医療や時間や手間、遊びなどを買うことができますが、お金がなければそれらを買うことができません。学費を払うお金がなければ高等学校や大学等に通えません。「お金が力」だと感じる人は多いのではないのでしょうか。お金がないとやりたいことができないことが多いんです。ですから貧困のお子さんたちは不公平を感じます。ひとり親のお子さんたちはなおさらです。不公平感は思い通りにいかないことを増やすので「怒り」につながりやすいんですね。「怒り」を人や物や自分に向けるのはマイナスです。私はどうしたらマイナスをプラスに変えることができるか考えました。考えました。考えました。施設に入ってから約一年が経過していました。離婚調停が成立して故郷に帰った私は自転車をこぎました。母子家庭のお子さんに進学のための無料学習会を

拓く。お子さんたちはたくさんの人たちから大切にされる(愛される)ことを実感すれば「自分を大切にするように相手を大切にする」ようになるわ!私たちが無料学習会をスタートさせて八か月経ちました。助成金はありません。貧困ですが、地元の国立大学の大学院生たちが順番にボランティア講師として協力して下さるようになりました。成績が上がった時に見せてくれる生徒さんの笑顔は素敵です。いつのまにか私たちが生徒さんたちから教えてもらっているのに気付きました。確かに経済的貧困は不幸ですが、文化的貧困と重ならなければ必ず活路が見つかります。



# 共生の社会づくり

## 認め合い 励まし合い 支え合い

群馬県

### 特定非営利活動法人 ラポールの会

**支援対象:** 子ども、青少年、若年者その保護者

**支援方法:** 子育て支援、自立支援(心理相談、精神療法)

**スタッフ数:** 8名

**実施団体:** 特定非営利活動法人 ラポールの会

**代表者:** 田中 悦二郎



住所: 〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡 664-5  
藤岡市障害者支援センター内  
TEL: 0274-24-8320 FAX: 0274-24-8060  
e-mail: npo-rapport@wonder.ocn.ne.jp  
URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~rapport/>

#### 成り立ちと活動の全体像

私(田中)は、教育委員会の適応指導教室「にじの家」の主任カウンセラーとして6年間勤務する。その中で公的な期間での対応だけでは、解決解消できない状況に何度も出会いました。

このような対応の難しい生徒達の自立を支援するには、民意での活動を重ね合わせ手を差しのべることが最善で最良の手法であると判断し会を立ち上げたのです。現在の活動内容は、子育て支援から青少年の健全育成、若年者の自立支援までの活動を展開しています。(特に、集団生活での適応が困難な発達障害児や心身症や精神疾患をかかえ自立に戸惑う子どもや若年者の支援です。)

#### ある日の活動風景

「外で遊ぶ」体験が少なくなり「どろいじり」や「よごす」体験、「汚い」ものを始末する体験が乳幼児期の子ども達の生活からとりのぞかれてしまいました。日本人の多くは農耕民族です。「土

を耕し、農作物を作る」「田に水を引き込んで稲作をする」といった生活を営々と続けてきました。したがって子ども達は、「土いじり」や「みず遊び」が大好きです。「芋掘り」や「田植え」などの栽培や収穫体験をさせることにより、「できたぞ」という成就感や達成感を育むばかりでなく、子ども達が取り組む“収穫感謝祭”へとつながり「感謝」や「よろこび」を体得できる活動です。





## 沿革

- 平成 13 年 4 月 ホールの会設立 こども、青少年の自立支援の活動を始める
- 平成 14 年 4 月 特定非営利活動法人の認証を受ける
- 平成 16 年 4 月 事務局を開設 相談活動並びに療育活動に取り組む
- 平成 17 年 4 月 厚生労働省の若年者職業的自立支援受託
- 平成 18 年 4 月 藤岡市中央児童館の指定管理者を受託
- 平成 18 年 12 月 「人にやさしい福祉のまちづくり」群馬県知事表彰を受賞
- 平成 20 年 4 月 福祉医療機構の子育て支援活動受託

## 主な活動

### 心理相談

子育て相談、障害児（心身症や発達障害児）、若者の自立支援（引きこもり）相談窓口は、児童館とラポールの相談室 相談は無料

### 精神療法

思考転換法、筋弛緩法、呼吸法、認知行動療法などの施術（ラポール）

### 療育活動

発達障害児や精神疾患者を対象にソーシャルトレーニングを導入

### 就労体験

短期の就労トレーニング（アグリワーク、アルバイトや清掃活動体験）

### ひだまりサロン

毎月 1 回開催 母親の懇談会

### 児童館の活動

- ・子育て支援：親子の居場所の提供、親子教室の開催（毎月 2～4 回）
- ・学童保育の活動：月曜日～土曜日 放課後～19 時（遊びや学びの活動）

### 講演会

育児講演会（毎月 1 回開催）若者自立支援の講演会（年 3 回開催）

## 印象深いエピソード

彼は、小学 2 年生です。

まるで、他の世界からやってきたようなふしぎな子どもです。（自閉症と多動性障害合併症の子ども）「友達の顔をひっかく」「すぐ手出しをする」「かみつく」でも友達大好き！

何でもいじったり、さわったりして確かめます。電話のコードを抜いちゃったり、コピー機を壊したり、まるで小悪魔のように振る舞います。

最近そんな彼が、仲間と仲良く遊んだり、集団の中に入ってニコニコ笑顔で生活したり大変身！仲良く遊んでくれる子ども達にありがとう。温かなまなざしで支えてくれる職員に感謝で～す。



# 子どもたち・若者たちが、お金がないことで、 かなしい思い・つらい体験をすることのない社会をつくる

埼玉県

## 「なくそう！子どもの貧困」 全国ネットワーク

**支援対象:** 子どもの貧困問題に関心のある個人。子どもの貧困解決に取り組む個人。

**支援方法:** メールリストでの情報発信・共有。子どもの貧困について学ぶセミナー、講演会の開催など。

**スタッフ数:** 世話人 8 名

**代表者:** 共同代表 平湯真人・湯澤直美・三輪ほう子



住所 : 〒352 - 8558 埼玉県新座市北野 1-2-26  
立教大学コミュニティ福祉学部湯澤直美研究室  
TEL: 070-6576-3495  
e-mail: mail@end-childpoverty.jp  
URL: <http://end-childpoverty.jp/>

### 成り立ちと活動の全体像

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークは、日本の子どもの貧困解決を目的として、2010年4月25日に設立された個人参加のネットワークです。メールリストでの情報発信・共有、相互交流などを中心としつつ、ゆるやかなつながりで運営されています。

これまでは、定期的なネットワーク会議の開催、子どもの貧困問題の啓発のためのセミナーや学習会の開催（全国の実践交流集会を含む）就学援助実態調査、法律策定のための提言、などを実施してきました。総会は年に一度開催しています。

2014年の子どもの貧困対策推進法の施行・大綱の制定を受け、今後は「子どもの貧困の実態の可視化」「気づきのまなざしの醸成」に重点をおき、子どもの貧困対策の先駆的な取り組みや研究について学びあう「子どもの貧困対策情報交換会」や、地域で実践している支援者や関係機関の交流・情報交換・学習の機会として「子どもの貧困対策実践交流会」を開催していきます。

### 私たちのよびかけ

1. 子ども・若者とともに、子ども・若者にかかわる広い領域・立場の人たちのネットワークをつくりましょう。
2. 子どもの貧困率の削減目標をつくり、子どもの貧困をなくすための具体的な計画を立てることを、政府に求めていきましょう。
3. 子どもの貧困対策を継続的に審議する当事者・関係者が参加する審議会を設置することを要望しましょう。
4. 東日本大震災をはじめ災害などで被災した子ども・若者たちへの支援のために、力を合わせましょう。

## 沿革

- 平成 22 年 4 月 「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク設立シンポジウムを開催。
- 平成 22 年 11 月 国際シンポジウム「イギリスに学ぶ子どもの貧困解決」開催。
- 平成 23 年 6 月 シンポジウム「震災と子どもの貧困を考える」開催。
- 平成 23 年 10 月 「学びサポート全国実践交流会」開催。
- 平成 24 年 9 月 「学び×暮らしサポート全国実践交流会 in 京都」開催。
- 平成 25 年 5 月 「子どもの貧困対策法制定を！市民集会」開催。
- 平成 25 年 10 月/平成 26 年 5 月 「生かそう！子どもの貧困対策法・市民のつどい」開催。
- 平成 25 年 12 月/平成 26 年 4 月 「子どもの貧困対策・自治体セミナー」開催。他

## 主な活動

### メーリングリスト

世話人会からのお知らせや、参加者相互の情報交流のために、メーリングリストを運営しています。

### 「子どもの貧困対策情報交換会」等の開催

子どもの貧困問題の啓発や、子どもの貧困について学ぶことを目的としたセミナー・学習会や、子どもの貧困問題に取り組む個人の実践報告・交流を目的とした交流会を開催しています。

### ホームページ・リーフレットでの啓発

子どもの貧困問題の啓発のために、ホームページでの情報提供やリーフレットの配布を行なっています。

## 情報提供ホームページの運営

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークでは団体ホームページ以外に、以下の 2 つの情報提供ホームページを公開しています。

### 子どもの貧困サポート情報提供ホームページ

<http://joho.end-childpoverty.jp/>

このホームページは、貧困・低所得の状況に置かれた子ども・子育て家庭が活用できる制度／施策について掲載しています。子どもの貧困に関連する諸制度について包括的に掲載することを目的とし、また、当事者にわかりやすい文体・内容で情報を掲載しています。

### 子どもの貧困対策法情報提供ホームページ

<http://law.end-childpoverty.jp/>

このホームページは、「子どもの貧困対策法」（正式名称：子どもの貧困対策の推進に関する法律）および平成 26 年 8 月に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」について、ひとりでも多く

の方に知って頂くことを目的として、できるだけ分かり易く解説をしています。また、子どもの貧困対策法に関連する新聞報道等のニューストピックを掲載しています。市民のみなさまをはじめ、子どもの貧困対策にかかわる民間団体や自治体関係者のみなさまにご活用頂ければ幸いです。

### メーリングリスト・リーフレット

世話人会からのお知らせ、参加者のお互いの情報交流のために、「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークメーリングリストを運営しています。」ぜひご参加ください。

#### 【メーリングリスト登録フォーム】

<http://end-childpoverty.jp/ml>

以下のページで団体リーフレットがご覧頂けます。

#### 【リーフレット】

<http://end-childpoverty.jp/profile>

# 帰る場所のない子どもたちが安心して暮らせる 避難場所 千葉の子どもシェルター帆希

千葉県

## 特定非営利活動法人 子どもセンター帆希

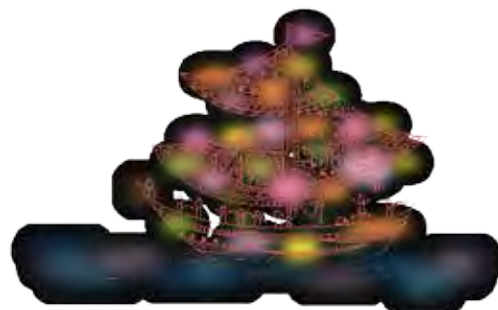
**支援対象:** 概ね 15 歳以上の女子

**支援方法:** 緊急避難場所の提供(生活支援)

**スタッフ数:** 3 名 + ボランティアスタッフ 30 名

**実施団体:** 特定非営利活動法人子どもセンター帆希

**代表者:** 金子重紀



住所: 〒260-8685 千葉市中央区南生実町 1412  
千葉明德短期大学内  
TEL & FAX: 043-209-2965  
e-mail: homarechiba@gmail.com  
URL: <http://chiba-homare.org/>

### 帆希の活動理念

子どもたちにとって、社会という大海の中で  
休む「舟」でありたい。

子どもたちを優しく後押しする「風」でありたい。

子どもたちが前へ進むための「帆」でありたい。

子どもたちに「希望」を与えたい。

子どもたちに「誇り(ほまれ)」をもってもらいた  
い。

私たちは、このような思いから、子どもシェルタ  
ーを運営するために、子どもセンター「帆希(ほま  
れ)」を立ち上げました。

家庭の中で虐待を受けて逃げ出した子どもたち、  
施設から社会に出たけれど戻る場所のない子ども  
たち、一人で悩み周囲から理解されず飛び出して  
しまった子どもたち...

子どもは大人に支えられて成長します。大人から  
大切にされることで、自身の誇りを持てるようにな  
ります。大人はすべての子どもたちの成長を支  
える義務があります。

私たちは、子どもシェルターを、家族や社会の中

で傷ついた子どもたちにとって、立ち止まって安  
心して休める場所、生きる力を取り戻せる場所に  
したいと考えています。

### 子どもシェルターはるつげ荘

私たちが運営する子どもシェルターは、概ね 15 歳  
以上の女児を対象とした女子シェルターです。

緊急避難場所であるため、場所は秘密ですが、千  
葉県内の一軒家を借りてシェルター運営をしてい  
ます。シェルターの名称は「はるつげ荘」。

シェルター用の物件を探していたときのこと。あ  
る物件の内見を行い、「この家をシェルターに使わ  
せてもらおう！」という話になったとき、青空の  
下、季節外れのウグイスが一声鳴きました。その  
声は、まるで、私たちの決意を後押しするよう  
に感じられました。ウグイスの別名は「春告げ鳥」。  
シェルターに入所した子どもたちに、人生の春が  
訪れるようにと願いを込めて、施設名を「はるつ  
げ荘」と命名しました。

はるつげ荘は、平成 26 年 12 月に開所したばかり  
の新しい施設です。これまでに入所した子どもは



## 沿革

平成 26 年 1 月 法人設立

平成 26 年 11 月 施設改修工事完了  
児童自立生活援助事業の承認を受ける。

平成 26 年 12 月 子どもシェルター「はるつげ荘」開所  
入所開始

## 主な活動

### シェルター事業の 3 つの柱

24 時間体制による生活支援

シェルターには大人が常駐し、24 時間体制で生活支援をします。

関係機関との連携

精神科医、臨床心理士などの専門家や行政機関、医療機関などの関係機関と連携し、専門的な支援を展開します。

子ども担当弁護士の選任

子ども一人一人には子ども担当弁護士を選任し、子どもたちの権利擁護を保障し、法的な支援を行います。

まだ 2 名ですが、二人とも居心地良く安心して生活できると言ってくれました。

スタッフ体制も法人の運営体制も十分ではなく手探りでの船出となりましたが、これからも子どもたちに必要な支援をしていきたいと考えています。



# キリスト教主義の婦人保護施設

千葉県

## 社会福祉法人ミッドナイトミッション のぞみ会 望みの門学園

**支援対象:** 女性

**支援方法:** 生活・就労支援

**スタッフ数:** 13 名

**実施団体:** 社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会  
望みの門学園

**代表者:** 田尻 隆



住所: 〒293-0021 千葉県富津市富津 617 - 14  
TEL: 0439-87-5044 FAX: 0439-87-5706  
e-mail: gakuen@nozominomon.or.jp  
URL: <http://www.nozominomon.or.jp>

### 成り立ちと活動の全体像

望みの門の創立は第二次世界大戦が終わって間もなく社会活動家でもあった牧師香川豊彦が、ドイツの教会に、食べていくために身を売る事しかできなかった女性たちを救出するための援助を依頼したことがきっかけとなった。敗戦国でもあるにもかかわらず、旧西ドイツではこの呼びかけに応じてMBKミッションはじめ4つの団体が協力して、ドイツミッション日本委員会という組織ができ、宣教師の派遣が検討され、中国での伝道ができなくなり帰国していたウルズラ・フォン・ライスヴィッツと、26歳若くて経験のないドーラ・ムンディング（後の木下弘人牧師夫人）との二人が選ばれた。1953年約1ヶ月をかけ船で横浜についた彼女たちはただイエス・キリストの福音を伝えることを目的に宣教活動を開始した。当時、公娼街で働く女性を収容する施設がなく、ドイツ人宣教師の祈りと全世界からの尊い献金によって望みの門が誕生した。

### 具体的な活動の様子

望みの門学園は入所してきた女性の自立や社会復帰への適応力を育てることを目的とした施設です。一人ひとり事情があり、抱えている問題もそれぞれです。すべての利用者が社会復帰を目指せるわけでもなく長期に渡り学園で生活をしている方がいることも事実です。その中で就労支援とはいろいろな意味を持ち合わせます。学園で暮らす方のなかには、日常生活のリズムさえ難しい場合もあります。朝起きても昨日と同じ服のままであったり、歯も磨かず朝食を食べたり自分の気分で勝手に朝食を抜いたり、日中活動ではたった2時間が我慢しきれず勝手に行動したり。なかなか、自分の力で判断し行動するということが難しいようです。そんな時、職員はリズムを正すために状況に合った必要な声掛けをして自発的に事に向かうよう促し対応にあたっています。利用者は決して毎日をスムーズに過ごしている訳でもなく、何かしらのトラブルを抱えています。時々、学園での支援が追いつかずに勤務先に迷惑をかけてしま

## 沿革

昭和28年 西ドイツの婦人宣教師が日本での活動を開始

昭和31年 東京望みの門開設

昭和37年 社会福祉法人設立認可  
望みの門学園事業認可

昭和55年 望みの門学園新園舎落成

## 主な活動

売春防止法・DV防止法を根拠法にする婦人保護施設。  
生活支援・日中活動支援・就労支援を実施する。

うことも多く、申し訳なく思っています。利用者それぞれが日々ステップアップしていけるよう、個々に合った実のある「就労支援」を心掛けていきたいと思えます。



## ある日の活動風景

初めは多くの疑問と不安を抱え、自分とはかけ離れている場所にあるもの、人だという認識が心の奥の方にあつたように感じます。しかし、実際に利用者さんと関わっていくうちに、人間って根本的なものは同じなのだという気持ちになりました。それは私自身が利用者さんに支えられ、励まされていることがたくさんあるからです。だからこそ、私は職員として利用者さんに何ができるのだろうか、どんな風に接するべきなのだろうかと自問自答を繰り返しています。衣食住が満たされる先にあるもの、それは娯楽なのかもしれません。自由時間を、ただ寝て過ごすのではなく、手芸や、栽培、読書、掃除、運動などをして過ごす方がずっと有意義で、ずっと生きている実感があるものです。自分が生きているという実感、誰かと繋がっているという安心感、それを提供するのが私の仕事であり、目標です。私もまた、学園での仕事を与えられ、そこに向かい一生懸命になっているとき、生きているという実感があるのです。

# すべての子どもが夢と希望をもてる社会へ

東京都・宮城県・福島県

## 特定非営利活動法人キッズドア

**支援対象:** 経済的に困難な家庭の子ども及び東日本大震災により被災した子ども

**支援方法:** 学習支援や体験活動の実施

**スタッフ数:** 13名(登録ボランティア約300名)

**実施団体:** 特定非営利活動法人キッズドア

**代表者:** 渡辺 由美子



住所: 〒104-0033 東京都中央区新川 2-1-11 八重洲  
第1パークビル7階  
TEL: 03-5244-9990 FAX: 03-5244-9991  
e-mail: info@kidsdoor.net

### 成り立ちと活動の全体像

2000年、キッズドア代表の渡辺はロンドンで1年間の海外生活を経験し、息子をイギリスの公立小学校へ編入させました。そこで、渡辺が体験したのは、公平な教育機会と、社会全体で子どもの成長を支える、地域住民や企業などの価値観でした。1年後、帰国し、息子を日本の小学校に転入させて渡辺が感じたのは「日本では子どもの教育にこんなにもお金がかかるのか」ということでした。その頃、日本にも子どもの貧困があるということが、メディアで取り上げられるようになり、渡辺は「日本でも、社会と子どもをつなぎ、社会全体で子どもを支える仕組みが必要では？」そんな問題意識を抱き、2007年、キッズドアを設立しました。

進学をあきらめてしまったら、就職にも不利になる。収入の高い職に就く事が出来なければ、その子どもたちも、また貧困の問題を抱えてしまう。この負の連鎖を断ち切る為に、子どもたちに進学する事の喜びを伝えたいと思い、現在の学習支援

活動を主とした事業展開に至りました。

### 具体的な活動の様子

学習会に子どもたちが来ると、ボランティアたちはそれぞれに話しかけ、前回出した宿題の出来具合や最近学校であったことなどを話し、学習の進捗状況や子どもの生活習慣の把握、メンタルケアをします。

子どもたちの多くは勉強でわからないことがあってもなかなか自分から聞くことができないため、ボランティアたちは子どもの表情や筆の進み具合を見て、声を掛け、わかるようになるまで寄り添います。今まで解けない問題はそのままにしていた子どもたちにとって、この経験は小さいながらも着実に自信へととなり、笑顔へと変わっていきます。学習会が終わっても、勉強を続ける子どもや大学生と一緒に自分の進路や将来について相談する姿が見られます。子どもたちが全員帰った後、ボランティアたちは自分が担当した子どもの学習状況や生活面で気になる点などを共有し、次の



## 沿革

- 平成 19 年 1 月 団体設立  
平成 21 年 10 月 特定非営利活動法人化  
平成 22 年 9 月 無料の高校受験対策講座[タダゼミ]開始  
平成 23 年 4 月 東日本大震災の被災者支援開始  
平成 25 年 1 月 目黒区生活保護世帯の生徒向け学習支援を開始  
平成 25 年 5 月 東京都教育庁とのキャリア教育連携事業実施  
平成 25 年 7 月 世田谷区ひとり親家庭の子どもたちの学習支援を実施

## 主な活動

### 無料の高校受験対策講座[タダゼミ]

### 大学受験対策講座[ガチゼミ]

ご家庭の経済的な理由から、学習塾に通うことができない中学生、高校生を受験指導を週末に開催。大学生ボランティアが親身に一人一人の子どもの志望校対策や個別質問対応を行う。

### ひとり親家庭の小学生・中学生への学習支援

ひとり親の子どもは、社会との接点が少なくなりがちのため、学習面だけでなく、社会性も身に付けてもらうことを目指し、大学生ボランティアがマンツーマンで子どもに寄り添いながら、わからないところを教える。

### 生活保護世帯の中学生・高校生への学習支援

生活保護世帯の子どもたちは、家で勉強をしにくい家庭環境にあり、経済的に困難があるからと、将来に対して希望を持ちづらい状態である。学習習慣の定着、学力の向上を目指して、週2回の個別指導を実施。

### 児童養護施設・母子生活支援施設での学習支援

学習会にどう活かせるかを話し合います。こうして、またボランティアたちは子どもたちのために準備をし始めます。次回出会える子どもたちの笑顔を思って。



## 印象深いエピソード

キッズドアの学習会に参加する子どもの多くは「学ぶ楽しさ」を知りません。今まで学校でわからないことがあっても、誰にもきくことができず、「自分は頭が悪いんだ。しょうがないんだ。」と諦めていました。しかし、キッズドアの学習会では

「分かるまで教える」ことを大切にしています。そのため、学習会では大学生がマンツーマンになって、子どもが理解しているか確認をしながら進め、出来た時には精いっぱい褒めてあげます。今まで褒められた経験がほとんどなかった子どもたちは大学生たちのそうした言葉一つ一つが自信となり「自分もやればできるんだ。分からないことは誰かにきいてもいいんだ。」という気持ちに変わり、「学ぶ楽しさ」を知っていきます。

学習会に参加した子どもの保護者や学校からは、「自宅でも自分から学習をするようになった。学校でもわからないところを積極的にきくようになった。」等の声がかけられます。また自分たちに勉強を教えてくれた大学生たちの姿を見て、「いつか自分も困っている子どもたちに勉強を教えたい。」と思う子も現れ、今年無事高校を卒業し、大学生になった子が今度はキッズドアのボランティアとして関わってくれるようになりました。

貧困状態にある子どもたちが夢や希望を持って社会に貢献する人材となってもらうこと。私たちが目指してきたことが実を結んだ瞬間でした。

# 若者が持っている力を信じて、一緒に寄り添う

東京都

## 特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや

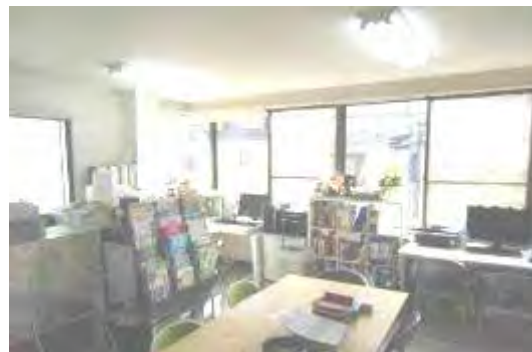
**支援対象:** 不登校やひきこもりの小・中学生及び15歳～概ね34歳までの若者

**支援方法:** 子育てや子どもとの関わりに不安や悩みを抱える家族相談・訪問・居場所・学習支援等の事業を行っている。ピアサポーターと呼んでいる支援員を配置し、本人支援を行います。趣味や興味関心など話が合いそうな年齢の近いピアサポーターと1対1で個別に対応し、信頼関係づくりを行う。

**スタッフ数:** 専従2名、非常勤1名、ボランティア26名

**実施団体:** 特定非営利活動法人ピアサポートネットしづや

**代表者:** 理事長 相川 良子



住所: 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-7-6 KTビル201

TEL: 03-6459-3848 FAX: 03-6459-3848

e-mail: info@peersupport.jp

URL: <http://peersupport.jp>

### 成り立ちと活動の全体像

1999(平成11)年に創設した中高生の居場所「渋谷ファンイン」の活動として、居場所づくりや訪問の取り組みをしてきた。若者をめぐる問題が深刻化するなかで地域や行政とのネットワークをつくりながら、法人化した。

私たちは、困難な状態にある子ども・若者に指導や助言をする上下の関係ではなく、一緒に将来を考え、励まし合い、楽しさや辛さを共有できる存在(ピア)として、ひとり一人の不安や悩みに寄り添い、また行政や関係機関や人々のネットワークと連携しながら、自分なりの幸せを社会の中で見つけていけるような手助け(サポート)をする。

### 訪問サポート増えています

今年度は、東京都社会参加応援事業「訪問相談・支援」の研究団体となり、「フリースペース」「社会体験活動」に加えて、東京都の「ひきこもり等の若者支援プログラム」に沿って、3つの支援内容を実施しています。訪問サポートは、自宅等

の場所に、こちらから支援員が出向き、本人あるいはご家族とお会いし、状況が改善できるように一緒に考える取り組みです。東京都のホームページやリーフレットを見て、問い合わせをいただいています。中高一貫校や受験を控えた中3時での不登校、ひきこもり状態の長期化を心配して親御さんからの連絡をいただいています。現在13件、本人およびご家族の支援を行っています。

### ビル清掃、アンケート集計、 テープ起こし等に奮闘中!

居場所、社会参加のプログラムを利用している30代を中心に、事務所のオーナーさんから依頼を受けたマンションやオフィスビル、日本マネジメント学会の学会誌の発送作業、都立高校で実施した仕事理解講座のアンケートのとりまとめ、内閣府アウトリーチ研修で研修生としてお越しになった方からの依頼で、講演のテープ起こしを行っています。作業の進め方や納期について、不安が出てきてナーバスになりますが、誠実で、丁寧な作業ぶりには感心させられます。不安が生じたときに、

## 沿革

- 平成 21 年 2 月 NPO 法人設立認証
- 平成 21 年 4 月 事業開始(相談、訪問、居場所)
- 平成 21 年 9 月 内閣府アウトリーチ研修生受入開始
- 平成 21 年 10 月 学習支援開始
- 平成 22 年 4 月 社会参加事業開始
- 平成 24 年 6 月 児童虐待防止への取り組み
- 平成 25 年 8 月 40 歳前半まで対象者を拡大
- 平成 25 年 11 月 渋谷ピアネットを創設
- 平成 26 年 7 月 渋谷わかもの会議創設

## 主な活動

- 自立応援プログラム
- ・相談  
来所による対面での相談を原則とし、専門相談員が対応します。本人の現状等をお聞きし、支援方法や家族の対応等を、一緒に考える。
  - ・訪問  
不登校、ひきこもりの子ども・若者の元(自宅等)に訪問し、本人への働きかけ、ご家族との面談を行う。
  - ・居場所&フリースペース(フリーティス)  
ピアサポーターとだけではなく、他者と適度な交わり、距離感を体感し、仲間づくりや学びのきっかけづくりを行う。必要なときは、ピアサポーター等が相談を受ける。
  - ・学習  
小中学生の学力の補充、高卒認定や大卒の資格取得など、学び直しをサポートする。
  - ・社会参加  
協力・受入企業等との連携のもと、ボランティア活動や就労に向けた研修、職場体験などの職場訓練をサポートする。
  - ・家族支援  
家族向けに、子育てや高校・大学進学等の相談や親同士の交流会や学習会、セミナーを行う。
- 被災地支援プログラム
- ・若者支援大槌プロジェクト  
高校生・大学生世代の若者と岩手県大槌町の人々との交流を進めている。

応えてあげられる範囲内にと安心して、作業に集中できるようです。



# 人はもっとやさしくて 社会はもっとおもしろい

東京都

## 認定特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク

**支援対象:** 就学年齢の子どもから 39 歳までの若者

**支援方法:** 相談・居場所・社会参加プログラムなど多様

**スタッフ数:** 49 名

**実施団体:** 認定特定非営利活動法人  
文化学習協同ネットワーク

**代表者:** 佐藤 洋作



住所: 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1 - 14 - 3  
TEL: 0422-47-8706 FAX: 0422-47-8709  
e-mail: center@npobunka.net  
URL: <http://www.npobunka.net>

### 成り立ちと活動の全体像

S49 年三鷹市にて「分かるまで教えます」をモットーに子どもたちを進学競争に追い立てない学習塾としてスタートする。90 年代に入り不登校が増加する中で学習塾の保護者からも不登校の子どもたちの相談を受けるようになりフリースペースを開設。H19 年には保護者や地域の方々、全国の支援者の応援を得て新学舎を設立。2000 年代に入り、その拠点を利用して不登校等の経験のある若者たちの自立サポートのためベーカリー「風のすみか」を開設。独自に若者たちの就労訓練事業を始める。同時に「風のすみか」に原材料を供給する「風のすみか農場」も相模原市で立ち上げる。H17 年にはこの施設を利用して、厚生労働省委託の「若者自立塾」をスタートさせ、H19 年三鷹市、H21 年相模原市、H25 年練馬区にて同じく厚生労働省認定のサポートステーションを開設し、若者たちの社会参加や就労支援等の事業を本格的に展開する。同時期 H20 年より順次西東京市や武蔵野市、三鷹市、練馬区、相模原市における学習支援、自立サ

ポート、就労支援等の委託をうけ、昨年度は世田谷区の青年の家運営業務委託により公共施設における居場所、学習支援、社会参加体験プログラムを実施する。基礎自治体においても様々な子ども・若者支援に関する事業を展開するに至る。

### 生活困窮世帯勉強会 ある日の日誌

#### 【Aさん日誌より】

将来は保育士になりたいので、人見知りをなおして誰とでも話せるようになりたいです。人と話すのが苦手なので、勉強会に参加するのが嫌で嫌でしょうがなかったけど、おもしろいスタッフさんや友達に出会い、来るのが毎回楽しみになっていました。変わったことといえば、受験モードになったことです。入学したら、制服を少し着くずして、携帯を持って行って、中学ではできなかったことをして、高校生活を楽しみたいです。大学を目指しているので、ハメをはずしすぎず、勉強に力を入れて頑張りたいです。



## 沿革

- 昭和 49 年 4 月 三鷹勉強会という学習教室を開設
- 平成 5 年 4 月 不登校児のためのフリースペースを開設
- 平成 11 年 11 月 特定非営利活動法人として認証される
- 平成 19 年 4 月 みたか地域若者サポートステーションを開設
- 平成 21 年 4 月 武蔵野市「ひきこもり」サポート事業開始
- 平成 22 年 4 月 三鷹市子ども・若者自立支援事業開始
- 平成 22 年 4 月 練馬区「子どもの健全育成支援事業」開始
- 平成 23 年 4 月 東京都の若者社会参加応援事業の登録団体となる

## 主な活動

- 不登校児のためのフリースペースの運営
- 特別な教育ニーズのある子のための学習支援
- 科学教室やパン屋さん体験教室等子どもの体験学習プログラムの実施
- 厚生労働省認定地域若者サポートステーション事業を3拠点にて実施
- 東京都訪問相談・支援登録団体
- 東京都居場所の提供登録団体
- 東京都社会参加への準備支援登録団体
- 西東京市ひきこもり・ニート対策事業の実施
- 武蔵野市ひきこもりサポート事業の実施
- 武蔵野市 若者サポート事業の実施
- 三鷹市子ども・若者自立支援事業の実施
- 練馬区子どもの健全育成支援事業の実施
- 相模原市子ども・若者自立サポート支援事業の実施
- 相模原市 若年者の学び直し・職業体験支援事業の実施
- 相模原市 若者キャリア開発プログラム事業の実施
- 相模原市 パーソナル・サポート・センター事業の実施
- 世田谷区 世田谷区青年の家運営業務委託



### 研修参加者の声とスタッフから

仕事を通して何が自分に向いているか考えたり、人とのやりとりや本音で向き合う中で、自分がどういう人間か考えるいい機会になりました。ここに来ていなかったら、ひきこもりになっていたんじゃないかと思います。どうやって歩けばいいかわからなくて立ち止まっていた自分にとって、このプログラムは歩き出すきっかけを見つかったり、歩く練習をする場所のようでもありました。明日

のことが不安で怖くて見たくないという気持ちがありましたが、いまは自分のやるべきこと、自分の働く姿が想像できることで、明日もやっていけそうだと思うようになりました。(研修生)

若者の多くは、人の評価に過敏で、周りから浮かないように排除されないように振る舞うことに神経をすり減らしているようにみえます。

それに耐えられなくなって人との関わりを避け、不登校や引きこもりを経験した若者は、ルールから外れた自分を責め、自己を肯定できなくなります。そんな若者が、もう一度人との関係を結びなおしていくことは、そう簡単ではありません。不完全な自分を出しても大丈夫な「安心できる場」と「わかりあえる、認め合える」仲間の存在が必要だからです。

それが出来てやっと若者は「働くこと」にむきあえます。若者の中間的就労に大切なことは、仕事体験でスキルをつけること以上に、この「自分も人と一緒にやりなおせる」と思える自己肯定感を回復することにあると思えます。(スタッフ)



# 生まれ育った環境によらず、自立や権利保障の観点から必要な支援・情報が十分に行き届く社会を目指します

東京都

## 特定非営利活動法人 3keys

**支援対象:** 虐待や貧困等で親や周りに頼る人が少なく、孤立しやすい子どもたち。学習支援事業では、児童養護施設や母子生活支援施設、自立援助ホーム等の児童福祉施設で暮らす子どもたちを主に支援しています。

**支援方法:** 学習支援事業(prêle) 啓発活動事業(伝える・変える) 子どもの権利保障推進事業(vine)

**スタッフ数:** ボランティアスタッフ 44名 常勤スタッフ 2名 学習ボランティア「まなボラ」登録者数 215名  
2015年5月時点

**実施団体:** 特定非営利活動法人 3keys

**代表者:** 森山誉恵



住所: 〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-6-27  
TEL: 03-5906-5416 FAX: 03-5906-5417  
e-mail: info@3keys.jp  
URL: http://3keys.jp

### 成り立ちと活動の全体像

ももとは児童養護施設に大学生の学習ボランティアを紹介する学生の有志の団体として立ち上がったのが、3keys のはじまりです。地域コミュニティが薄れてきている中で、誰かの支援を必要とする子どもたちと、支援をしたい人たちとの距離が遠くなっていくことを感じました。特に若者は地域活動になじみがないものも多く、若者が求められる学習支援においては常に人手不足であることを知り、大学生をはじめ、ボランティアと子どもたちとをつなぐ支援をはじめさせて頂きました。これまで多くの児童福祉施設から依頼を受け、3keys でボランティアの募集や研修、学習支援中のフォローをさせて頂いています。

その後、支援の担い手を増やすために、啓発を目的とした Child Issue Seminar という連続セミナーの開催や、3keys のことを知ってくださる方が増える中で、他に行き場のない子どもやその周辺の方からの相談が寄せられるようになり、子どもの相談窓口の開設にも至りました。

### ボランティアが「集まらない」「選べない」「続かない」の解消に向けて

学習ボランティアが「集まらない」「選べない」「続かない」という悩みを抱えた児童福祉施設は少なくありません。児童福祉施設という特殊な環境で暮らしていることで、ボランティアと子どもの当たり前にギャップがあり、その2者を適切につなぐ存在は不可欠だと考えています。3keys は子どもの置かれた状況の特異さを加味し、個人情報等に配慮した募集方法を用意したり、ボランティアが孤立しないために毎週の指導後のフォロー体制や、交流会の開催等を行っています。

<学習ボランティア(3keys での名称: チューター) アンケートより抜粋>

・活動をしたいと思っても自分から施設を探して面接に行くというのはハードルが高いことだと思うので、説明会で事前に施設のことを知り、紹介して頂けるのはとてもありがたかったです。

・毎回の報告書の限られた情報でも助言や激励を下さったので感謝しております。

## 沿革

- 平成 21 年 4 月 学生主体の任意団体  
3keys を立ち上げる
- 平成 21 年 6 月 児童養護施設への学  
習支援開始
- 平成 22 年 3 月 自立援助ホームへの  
学習支援開始
- 平成 22 年 4 月 母子生活支援施設へ  
の学習支援開始
- 平成 23 年 5 月 「特定非営利活動法  
人 3keys」として法人  
登記
- 平成 24 年 12 月 学習支援拠点が神奈  
川に広がる
- 平成 25 年 4 月 学習支援拠点が千葉  
に広がる
- 平成 25 年 6 月 連続セミナー、「Child  
Issue Seminar」の開  
催スタート
- 平成 26 年 4 月 子どもの権利保障推  
進事業「vine(ヴァイ  
ン)」スタート

## 主な活動

学習支援事業 prêle(プレール)  
貧困・格差下の子どもたちへの学習支援活動、児童福祉施設への  
学習ボランティア派遣、教室運営支援など

子どもの権利保障推進事業 vine(ヴァイン)  
子どもたちの、お金、恋人、学習、家族などにまつわる相談事業

啓発活動「伝える」  
セミナーやイベントの開催、講演・執筆・メディアでの発信によ  
る啓発活動

啓発活動「変える」  
CSR の相談や寄付・イベントのマッチング、社内研修会・勉強会等  
への講師派遣等

・コーディネーターによる、指導開始までの面談  
を含めたフォローに関しては親切で、指導をスム  
ーズに始める上で非常に助けられました。

<施設アンケートより抜粋>

今回依頼したケースは、国や東京都からの補助金  
が出ない高校生の学習支援でした。学園側にかかる  
費用も交通費分だけで、とても助かりました。  
「学習したい」という子どもの意欲を金銭面の問  
題で手離して喜べない現状が非常に心苦しくもあ  
りました。3keys さんの御力を頂いて、そのよう  
な子どもへの「やりたい」という気持ちに私たち  
なりに応えられたことはとても有難かったです。  
また、ボランティアの方のサポートをコーディネ  
ーターの方が行って下さることがとても素晴らし  
い仕組みだと思いました。正直、施設側にそのよ  
うなきめ細やかなサポートはできないのが現状で  
す。



もっとたくさんの人に身近に感じてほしい

昔は当たり前のように地域が担っていたものが、  
今では子どもにまつわる活動は特殊なものとして  
見られやすくなりました。かつて地域が支えてい  
た緩やかな子どもや子どもの親の見守り機能を維  
持するにはもっと多くの方の参加や理解が必要だ  
と考えています。

Child Issue Seminar では、子どもたちの取り巻  
く状況を、なるべくこれまで関わったことのない  
方でも参加しやすいように工夫をし、より多くの  
方への啓発を目指しています。



# 未来を変える小さなミカタ ママと子どもたちの「今」をサポート

東京都

## NPO 法人リトルワンズ

**支援対象:** 中学生以下の子どもたちを持つ母親(平均35歳)と、その子女

**支援方法:** 生活、就労、住居、情報、交流支援

**スタッフ数:** コアメンバー10名、ボランティア30名

**実施団体:** 杉並区阿佐谷南3-37-10-301

**代表者:** 小山訓久



住所: 〒166-0004 杉並区阿佐ヶ谷南3-37-10-301  
TEL: 03-5335-7285 FAX: 03-6893-4541  
e-mail: info@npolittleones.com  
URL: <http://www.npolittleones.com/>

### 成り立ちと活動の全体像

代表小山がTV番組制作の過程で、一人親世帯の現実、子どもの貧困に気づき、独自に調査。都内在住の一人親100人にアンケートをとり、インタビューをした結果、日本の今の母親と子どもたちのニーズと、支援のギャップが判明した。さらに、支援方法が実生活に合っていない問題にも注目。TVを退職後、メディアにいた経験と、アメリカ留学中に学んだNPO運営、女性支援経験を生かし、ボランティア団体として活動を開始。その後、NPO法人格を取得。現在に至る。

都内在住の1000家族を対象に、生活、就労、住居、情報、交流支援を主に行っており、企業からの協力によるイベントやセミナー、自主企画、地域自治体との協働なども活発です。一般の人向けに子供の貧困の啓発活動をおこなっています。

近年では、ネットを活かした情報提供事業と、空き家を使った居住支援事業で注目を集めています。

### 具体的な活動の様子

リトルワンズの特徴としては、「今」のママと子どもたちに必要な支援を提供していることです。住むところが必要な方には、住居を提供。職場を探していたら、就業支援や履歴書の書き方を教えたり、紹介状を書いたりしています。子どもたちとお母さんがともに楽しめる企画を立てていますが、こちらの都合よりも、リクエストに応じるようにしています。「今」現役で働いて、子育てをしているママたちの声を聞き、実現することが、支援者の姿勢の1つだと思っています。ネウボラとして、赤ちゃんを抱えているママたちには子育てセット



## 沿革

平成 20 年 活動開始  
平成 21 年 ボランティア団体として  
立ち上げ（マザーフェス  
タ）  
平成 22 年 NPO 法人として活動開  
始

## 主な活動

### 生活支援

各種公的支援情報の提供  
生活必須品の提供  
生活支援情報（キャリアアップ、ファイナンシャルスキル）を提供

### 自立支援

在宅就労支援、就業スキルサポート  
精神的不安、子育て不安の軽減カウンセリング  
専門家からのアドバイス提供

### 住宅支援

### 教育支援

キャリアアップ、転職、就職支援  
子供向け教育情報、機会の提供  
文化学習の機会提供

### 交流支援

月に1度のネットワーク交流会  
情報交換の場を提供  
面会交流アレンジ

をお送りしています。これも、ママの「今」に応じたかたちです。

## 支援のスタイルと方法

支援スタイルとして3つ特徴があります。

### 企業連携

企業を寄付者ではなく、支援者として一緒に子どもの貧困解決や女性支援に巻き込んでいます。行政とも連携をしていますが、企業とコラボレーションする方が多いです。企業に働く人たちは社会人。子どもたちにとって、ロールモデルになるうえ、社会人がもつスキルを活かすこともできます。

### 当事者にフェア

シングルママ、パパ、子どもたちを支援対象としていますが、決して彼女たちを弱者としては扱っていません。PRをするうえでも、必ず当事者にもフェアなかたちをとっています。これは、弱者扱いすることによるスティグマを防ぐためでもあり、未来を支える子どもたちの健全な育成を目指してのことです。スピード感をもって支援しています

が、子どもとママにフェアなPRかどうかは十分に審査して望んでいます。海外ではあたりまえですが、日本ではまだまだ進んでいません。現在、子どもの貧困啓発のモデルを海外大学と連携して作成しています。

### スピード、スマート、スイート

スピードと効果を重視するため、事務所に全員が集まって仕事をすることはありません。それぞれの専門性をいかし、独自のチームをつくって、プロジェクト単位で活動しています。ネットやメールでの連絡や会議をつかい、支援をしています。今のママたちの生活に合った支援を提供しているので、愛着も高いです。